



大樹

令和5年10月31日
流山市立八木南小学校



一緒に育つ



実りの11月になります。

先月は、地域の方々に本校の子供たちの様子を見ていただいたり、本校の子供たちが校外に出かけて学校以外の方々と触れ合ったりする機会が多くありました。修学旅行では、事前準備として、子供たちが「どんな修学旅行にしたいか」と考えたり、Teamsで実行委員会の会議を主体的に行ったりしました。自分たちの手で創り上げてきたことが、最高学年としての姿を存分に発揮することにつながったと感じました。ネイチャーガイドの方、バスガイドの方、宿泊先の方、そして担任以外の職員たちとも、落ち着いて朗らかに対話ができる子供たち、ネイチャーガイドの方からは「ガイド冥利に尽きます。」という感想までいただきました。どこへ行っても愛され大切にされる子供たちです。

他にも、市内音楽発表会では、緊張した面持ちではありましたが、心を合わせ息を合わせた演奏が、会場にのびやかに広がりました。演奏後に子供たちに感想を聞いてみると、「悔いがないとは言えないけど、やり切った！」というにこやかな表情でした。

「よし、やるぞ！」というとてもいい雰囲気でも迎えたミニバスケットボール大会、特に上級生の熱い思いがよく伝わってきました。「ナイスシュート!」「ドンマイ!」と互いに励まし合う子供たちと共に、どんな小さなチャレンジでも「いいよー、その調子」と褒めたり、マイボールにできた瞬間に「次、どうする?何が出来る?」などと子供たちの瞬時の考えを引き出そうとしたりする職員の声かけが、印象的でした。

子供たちと職員と一緒に取り組んできた過程が貴重な財産です。日頃からのご家庭での数々の支えも、本当にありがとうございます。

心も身体も健康であるほど、生産性や創造性が上がっているという研究結果があり、日本では健康経営や働き方改革の観点から、国や企業からウェルビーイングという概念が広がりました。そんな概念が、教育においても注目されています。学校で学んだり体験したりしたことが、子供たちのこれからの「生きる力」となって、明日に、明後日に、その先の未来につながってほしいと願っています。社会がどんどん変化して予測困難であったとしても、自ら考え、判断し、行動し、心豊かにそれぞれの思い描く幸せを実現するために、たくさんの人たちとつながって支え合ってほしいと、改めて思っています。

これからも引き続き変わらぬご支援ご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

流山市立八木南小学校 校長 山本 亜由美

